

地域の危険度マップ

朝日地域

危険度マップ・全壊率 凡例

危険度1	0%以上～ 3%未満
危険度2	3%以上～ 5%未満
危険度3	5%以上～ 7%未満
危険度4	7%以上～10%未満
危険度5	10%以上～20%未満
危険度6	20%以上～30%未満
危険度7	30%以上

「危険度マップ」の見方

「危険度マップ」とは、裏面の「揺れやすさマップ」で示した強さの地震が起きたとき、建物の被害予想を「危険度」として表示したものです。地図上には、建物が存在するメッシュ(約50m四方)についてのみ着色しています。

非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一次持ち出し品(例)

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。

貴重品

現金(10円がある)と公衆電話利用に便利)、預金通帳、印鑑、免許証、保険証、権利証書など

タオル・下着・靴下など

カバンや缶詰など火を運んでもうけるもの、缶詰、缶詰、缶詰も忘れずに。

救急医薬品・常備薬

ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、持病のある人は常備薬など

懐中電燈

できれば1人1つ、予備電池も

携帯ラジオ

AM/FM両方聞けるものを、予備電池も

その他

ティッシュ、軍手、ロープ、マッザ、洗面用具、生理用品など

●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年よりなどで特に必要なものがあれば追加しておきましょう。

●非常持ち出し品は定期的に点検をし、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

二次持ち出し品(例)

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。

食糧

米や簡単な調理で食べられる食品

飲料水

1人1日3リットルが目安。ポリタンクなどに保存しておく。

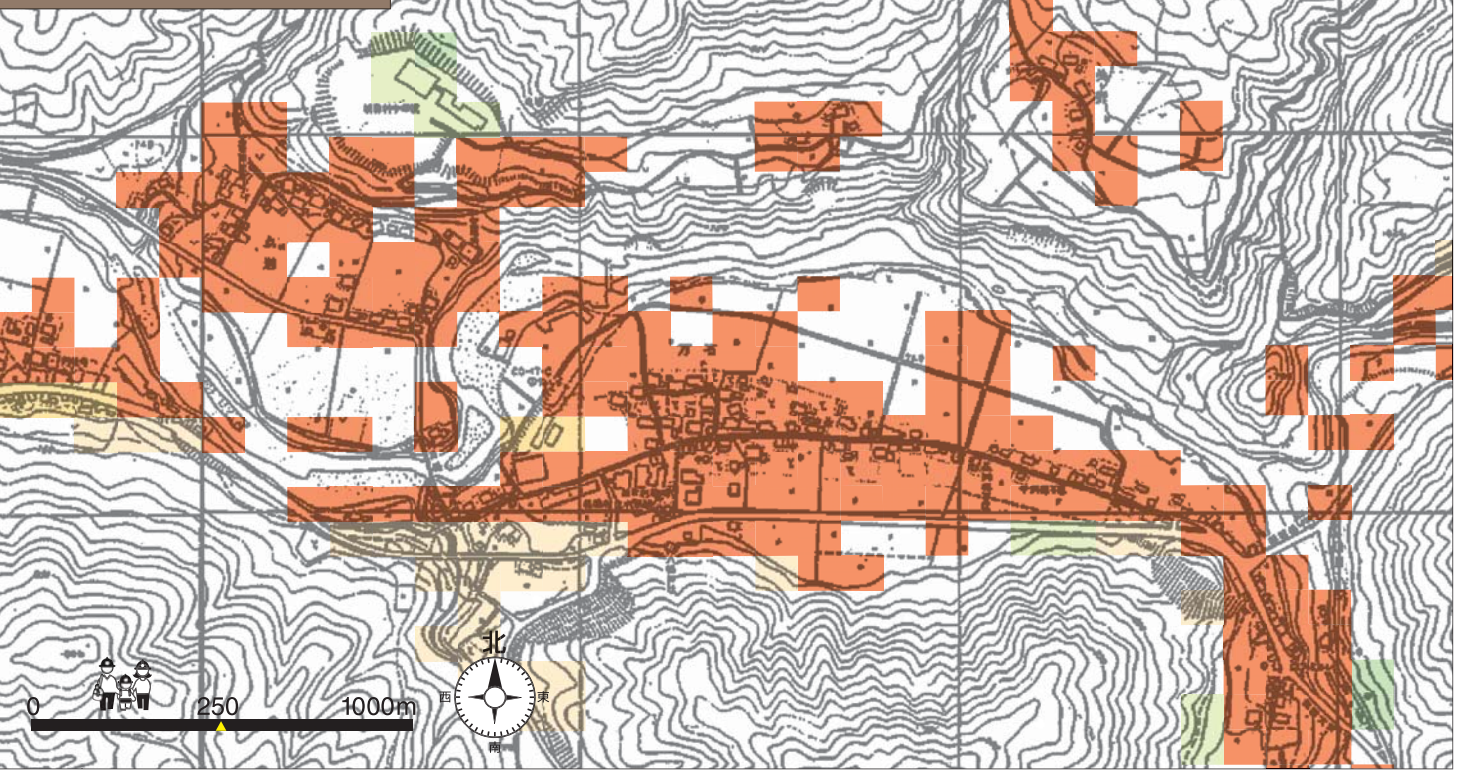
燃料

卓上コンロや固形燃料

その他

- 赤ちゃんがいる場合
粉ミルクやほ乳びん、離乳食、紙おむつなど
- お年寄りがいる場合
予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

拡大地図



耐震診断・耐震補強工事の助成制度について

高山市では、地震に強い安全なまちづくりを目指すため、市内の建物所有者を対象とした「耐震診断」、「耐震補強工事」の助成制度を設けています。この制度を受けるには、要件がありますので、詳しくは高山市基盤整備部都市整備課までお問い合わせください。

住宅の耐震性について

地震における木造住宅の倒壊率は、古い住宅ほど高く、耐震壁の少なさやバランス配置の悪さ、老朽化等が倒壊の原因であるといわれています。特に、昭和56年5月31日以前に着工している場合や平面の形状が不整形な場合等では、耐震性が低い傾向にあります。心当たりがある方は、専門家による「耐震診断」を受けましょう。

家の内外の地震対策を進めましょう

アンテナはしっかりと固定しておく。

屋根瓦やトタン屋根を点検し、危険なものは固定するか、専門業者に依頼して修理・交換する。

柱・梁・土台を補強する。

窓などの板ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る。

カーテンは防災加工のものにする。

非常持ち出し袋を常備する。

ガラスの破片によるけがを防止するため、スリッパなどの室内履きを身近に用意しておく。

プロパンガスボンベは上下2本の鎖でしっかりと固定する。

常時水を貯めておく。

火元に消火器を設置。

基礎を補強する。

扉に留め具をつける。

ガラス飛散防止フィルムを貼る。

壁や基礎にひび割れなどがないか、腐ったの、シロアリに食われていないか点検する。

枕元には懐中電灯、ラジオ、靴、缶などが入った袋を用意する。

タンスなど背の高い家具は足金具や支え棒で固定する。

ブロック壁でなく生け垣を。

車には、バール、ジャッキ、テント、毛布、寝袋、ビニールシートなどを用意する。

●大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。

●玄関や廊下には家具や荷物を置かない。

●高齢者や子どものいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

久々野地域

高根地域

下呂市

家族防災会議を開きましょう

いざという時に家族があわてず行動できるよう、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

家族一人ひとりの役割を決める

災害弱者の支援方法を決めておく

非常持ち出し品の準備とチェック

地震発生時の連絡方法を決めておく

避難場所と避難ルートの確認をする